

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-62672

⑬ Int. Cl.⁵

H 04 N 1/32
1/00

識別記号

1 0 6 D
Z

庁内整理番号

2109-5C
7170-5C

⑭ 公開 平成3年(1991)3月18日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 データ情報送信機能付ファクシミリ装置

⑯ 特 願 平1-196809

⑰ 出 願 平1(1989)7月31日

⑱ 発 明 者 高 橋 喜 美 雄 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑲ 発 明 者 畠 山 泰 子 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内

⑳ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号

㉑ 代 理 人 弁理士 渡辺 喜平

明 細 書

1. 発明の名称

データ情報送信機能付ファクシミリ装置

2. 特許請求の範囲

モード切替信号に応じてデータの送受信を行うとともに、データ受信時におけるデータの受信状態を検出し、検出した受信状態をメモリ部に記憶させ、かつすべての受信が終了した後に当該受信状態の受信結果を、メモリ部に記憶されている所定の文書フォーマットに従って送信するFAX機能部を具備することを特徴とするデータ情報送信機能付ファクシミリ装置。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本発明は、模写伝送又は写真伝送といったデータ伝送手段として使用されるファクシミリ装置に関し、特にデータ受信後、所定の受信情報を返送する機能を有するデータ情報送信機能付ファクシミリ装置に関する。

[従来の技術]

従来、ファクシミリ装置を利用したデータ通信は、送受信者双方にファクシミリ装置を配置し、送信者から送信されたデータを受信者側が受信することにより行なっていた。

[解決すべき課題]

上述したように、従来のファクシミリ装置を利用したデータ通信にあつては、送信されたデータが確実に受信されたかを否かを自動的に判断する事がなかった。

このため、送信者は、あらかじめ、ファクス番号及びデータ送信枚数を記入した送付状を書類とともに伝送し、受信者側が受信した書類と送付状に記入された内容を対比して確認し、電話あるいはファクシミリ装置を利用して受信状態の報告を行なっていた。

本発明は、上述した問題点にかんがみてなされたもので、受信情報を自動的に返送することにより、データ通信に要する人手と時間を省くことが

できるデータ情報送信機能付ファクシミリ装置の提供を目的とする。

[課題の解決手段]

上記目的を達成するために本発明は、モード切替信号に応じてデータの送受信を行うとともに、データ受信時におけるデータの受信状態を検出し、検出した受信状態をメモリ部に記憶させ、かつ、すべての受信が終了した後に当該受信状態の受信結果を、メモリ部に記憶されている所定の文書フォーマットに従って送信するFAX機能部を具備する構成としてある。

[実施例]

以下、本発明の一実施例について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例に係るデータ情報送信機能付ファクシミリ装置を利用した状態を示すブロック図である。

図面において、1および2は電子交換機であり、送受信者間の回線交換、又はメッセージ交換を行

う。

3はファクシミリ装置であり、従来のファクシミリ装置と同様に電子交換機1に接続され、データの送受信を行う。

一方、4はデータ情報通信機能付ファクシミリ装置（以下、ファクシミリ装置と称することもある）であり、電子交換機2に接続されている。そして、このファクシミリ装置4は、以下に述べるFAX機能部4aおよびメモリ部4bを有している。

FAX機能部4aは、外部からのモード切替信号によってデータの受信あるいは送信を行うとともに、データ受信時にはその受信内容を検出し、検出した内容をメモリ部4bに書き込む。

メモリ部4bは、受信状態通知文書フォーマットが記憶されており、FAX機能部4aによって受信されたデータ内容の受信状態、例えば送信者側FAX番号、受信文書枚数等を受信情報としてメモリし、受信終了後当該フォーマットに従い記入を行う。

第2図(a),(b)は本実施例のファクシミリ装置を用

いて、データ伝送を行った状態を示す図である。

まず、ファクシミリ装置3からファクシミリ装置4に対し、呼が行われる。次に、電子交換機1と2の間で回線の接続が行われると、ファクシミリ装置3は送信モードに切り替わる。第2図(a)に示すように、ファクシミリ装置3から送信されたデータは電子交換機1,2を介して図中の矢印方向に進み、ファクシミリ装置4に着信する。そして、ファクシミリ装置4に着信したデータは、FAX機能部4aによって順次受信され、所要の場合には用紙に出力される。さらに、このFAX機能部4aは、順次入力されてくる受信データの内容や枚数、受信状態あるいは異常発生状態を検出し、メモリ部4bに書き込みを行う。

すべてのデータの送信が終了すると、ファクシミリ装置3受信モードへ切り替わり、このモード切替信号によってファクシミリ装置4は送信モードへと切り替わる。ファクシミリ装置4では、メモリ部4bにメモリされた受信状態を示す受信情報

がFAX機能部4aによって読みだされ、第2図(b)の図中に示す矢印方向に従って送信し、あらかじめ記憶されている受信状態通知文書フォーマットに従い、ファクシミリ装置3に出力される。こうした一連の作業によって一つのデータ伝送が終了する。

なお、本実施例では、送受信者の一方について、データ情報送信機能付ファクシミリ装置を使用しているが、双方使用することにより、より一層データ伝送の効率化が図られる。

[発明の効果]

以上説明したように本発明によれば、人手と時間をかけることなく自動的にデータ受信状態が確認できるので、データ伝送のより一層の効率化を図ることができるといった効果がある。

4.図面の簡単な説明

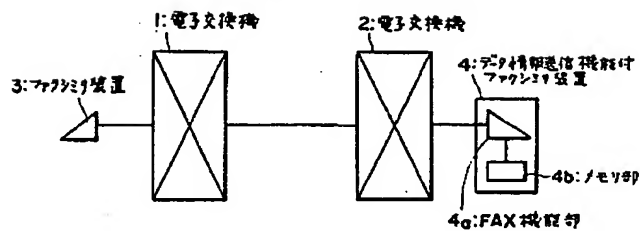
第1図は本発明の一実施例に係るデータ情報送信機能付ファクシミリ装置を利用した状態を示すブロック図、第2図(a),(b)は第1図におけるデータ

伝送の状態を示すブロック図である。

- 1,2 : 電子交換機
- 3 : ファクシミリ装置
- 4 : データ情報送信機能付ファクシミリ装置
- 4a : FAX機能部
- 4b : メモリ部

代理人 弁理士 渡辺喜平

第 1 図



第 2 図

